

2024年6月23日  
宮崎中部教会主日礼拝  
牧師 乾元美

イザヤ書 48：20～22

マタイによる福音書 5：9

「平和を実現する人々は幸い」

【招詞】詩編 51：12～14

【讃美歌】 25 「父、子、聖霊に」

【詩編交読】詩編 130 編

【赦しの宣言】イザヤ書 55：7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讃美歌】 12 「とうときわが神よ」

【祈祷】

【聖書】イザヤ書 48：20～22、マタイによる福音書 5：9

【説教】「平和を実現する人々は幸い」

<平和を求めるわたしたち>

主日礼拝では、イエスさまの「山上の説教」の御言葉を、毎回一節ずつ聞いています。

今日は、「平和を実現する人々は、幸いである、／その人たちは神の子と呼ばれる」との御言葉です。

「平和を実現する人々は、幸いである」。

今、わたしたちは誰しものが、世界の平和を望んでいるのではないのでしょうか。

数年間にわたる、ロシア、ウクライナの戦争。またガザ地区、イスラエルの悲惨な状況。子どもたちが飢え、弱い人々が見捨てられ、無抵抗な人々が攻撃されています。

またニュースは、テロや、銃撃事件、殺人、暴力など、残酷な出来事を次々と伝えます。

平和が実現して欲しい。争いがなくなって欲しい。自分も、世界の平和のために、何かできないだろうか。そう考える人は、多いのではないのでしょうか。

でも、遠い場所で起こる、国と国との争いを思って、わたしたちは、自分の無力さを感じざるを得ません。

行動力のある人は、現地に行って、直接手を差し出そうとしています。政治的に力を持つ人々は、何とか解決しようと知恵を絞っています。その方たちに、神さまの守りと、良き導きがあることを、わたしたちは、心から祈り願っています。

でも、ここにいるわたしは、何もできない。勇気もないし、力もない。そうしてどこか、遠くを眺める目で、テレビの向こう側の出来事を見つめているかも知れません。

挙句、わたしたちは、神さまに不満の矛先を向けることも、あるのではないのでしょうか。

神さまなら、一瞬で、平和をこの世に來たらせることができるのではないだろうか。神さまの大きな御力で、間違っている悪い奴らを滅ぼして、こんな戦争を一発で終わらせてくださることは出来ないのだろうか。神さまはどうして、こんな悲しみと嘆きに満ちた状況を、許しておられるのだろうか。

どこかで、神さまを責めながら。そして、嘆いている人々に心を痛めながら。しかし、どうにもならない現状に、怒りのような、あるいは諦めのような気持ちを持ちつつ。わたしたちは、この世に平和が実現することを、待ち望んでいるのではないのでしょうか。

#### <平和を実現する人>

さて、今日の御言葉で、イエスさまは「平和を実現する人々は、幸いである」と言われました。

ここで注意すべきは、イエスさまは、「平和の実現を願い求める人々は、幸いである」とおっしゃったのではない、ということです。また「実現した平和の中を生きる人々は、幸いである」とも言われませんでした。

もし、平和を願うことが、幸いだというなら。平和に生きることを、幸いだと言うなら。わたしたちは、堂々と、喜んで、わたしは幸いな者だ、とすることができるでしょう。

しかし、イエスさまは、「平和を実現する人々は、幸いである」と言われたのです。

そうであるなら、わたしたちは、口を噤んでしまいます。

…なぜなら、平和を求めているはずなのに、わたしたちは、平和を造り出すよりも、争いや憎しみを造り出していることの方が、よっぽど多いと思われるからです。

あるいは、目の前の争いをやり過ぎて、人と関わらないようにして、自分一人の平和だけを、懸命に守ろうとはしていないのでしょうか。

目の前の、一人の隣人とさえも、平和を実現できないのに。日々、共に過ごしている人とも、争いや、諍いや、不和を抱えているのに。わたし自身が、生活や、日常を共にする、目の前の隣人と、平和を築こうとしていないのに。

そんなわたしが、世界の平和を願い求めている。なぜ争いが終わらないのかと怒っている。それはまったく、口と行いとが、分裂してしまっている状態です。

…しかし、そのようなわたしたちに、イエスさまは、「あなたが、平和を実現しなさい。その幸いにこそ、あなたは生きなさい。」そのようにわたしたちを、招いておられるのです。

#### <力で実現する世の平和>

イエスさまは、「平和を実現する人々は、幸いである、／その人たちは神の子と呼ばれる」と言われました。

一体わたしたちは、どのようにして「平和を実現する者」となることができるでしょうか。どうしたら、「神の子」などと、呼んでいただけるようになるのでしょうか。

ところで、イエスさまの目の前に座って、この御言葉を聞いた、当時の人々の頭には、ある人物が、頭に思い浮かんだと思われます。

それは、時のローマ皇帝です。ローマ皇帝は、圧倒的な武力をもって、国々、地域を制圧し、広大な帝国を築きました。この大きな権力によって支配されている地域は、外から刃向かってくる者もなく、大きな戦争も起こらず、紀元1世紀から2世紀ごろまでは、「ローマの平和」などと呼ばれる時を過ごしたのです。

これは、力で、力を押さえつけることによって、実現した平和です。

ですから、強い武力と、圧倒的な支配力を持つローマ皇帝は、まさに当時の人々にとって、争いをなくした、「平和を実現した人」でした。

そして、ローマ皇帝は、人々に、自らのことを「神の子」と、呼ばせたのです。

でも、ここでイエスさまに語りかけられているのは、一介の漁師に過ぎなかった弟子たち。また、病や、弱さや、苦しみ悩みを抱えて、御許に集まってきた、自分のことだけで精一杯の、ただ、神さまに憐れみをすがるしかなかった、心の貧しい人々です。

そしてそれは、ここで御言葉を聞いている、わたしたちでもあります。

イエスさまは、力強い権力者のローマ皇帝にではなくて。このような、弱々しい、貧しい人々に。力も、愛も、勇気もない、わたしたちに。

あなたたちが、「平和を実現する人」なのだ。あなたたちが、「神の子」と呼ばれるのだ。そう、語りかけられたのです。

そして、その御言葉を実現するために、イエスさまは、十字架の道を歩まれたのです。

### <神との平和>

わたしたちは、平和を実現する人とされるために。まず、一人一人が抱えている、根本的な争いの根っこを、イエスさまに解決していただかなければなりませんでした。

わたしたちが、人と争うこと、人を支配しようとする事、自分の利権を守ろうとすること、他の人を差し置いても、自分の平和を保とうとすること。

これらの根本には、神さまの御言葉に従うことのできない、わたしたちの罪が横たわっているのです。

本来、神さまに造られたわたしたちは、神さまを主人として、神さまの御心に従って歩むことが、本来の生き方です。

その、わたしたちが従うべき神さまの御心、つまり、神さまがわたしたちに求めておられることとは、神さまを愛すること。そして、自分のように隣人を愛することです。

この神さまの御心に、造られたすべての者が、喜んで従うなら。わたしたちは、共に神さまを、まことの神さまとして礼拝し、互いに愛し合い、赦し合い、共に生きていくことが出来るでしょう。

でも、わたしたちは、神さまに従うよりも、自分の思い、自分の心に従いたいのです。

そこに、わたしたちの罪があります。わたしたちは、神さまに支配していただくよりも、自分が支配者でいたいのです。

自分の人生を、自分の望むように歩みたい。自分の欲しいものを手にし、自分の安心・安全を守り、自分の大切なものだけを大切にしたい。

その方が、自分にとって、楽しく、自由で、利益があるように思えるからです。

何なら神さまには、自分の都合のよい時だけ、願いを叶えてもらえればよい。必要な時だけ、助けてくれればよい。

それはまるで、神さまを都合よく利用しているかのようです。

そのように、皆が、神さまのご支配を拒み、自分を主人として、自分のことだけを考えて生きようとするから、そこに、他の人との摩擦が起こり、争いが起こり、競争が起こり、分断が起こってくるのです。

互いに、傷つけ合ったり、見捨てたり、無関心になったりするのです。

すべての人間同士の争いや、敵対、分断の根本には、このように、自己中心に生きて、神さまに敵対し、従おうとしない、わたしたちの罪があるのです。

まず、わたしたちは、この自分の罪に気づかなければなりません。

わたしたちが平和を求めるのであれば、何よりも先に、自分の罪を悔い改め、神さまに背くことをやめ、神さまとの平和、神さまとの和解を、求めなければならないのです。

「平和」とは、まず、神さまとわたしたちの間に、与えられるべきものです。

神さまが、わたしたちのまことの神であられること。神さまが、わたしたちのまことの支配者であること。わたしたちは、本来のこの立ち位置に、戻らなければなりません。

神さまとの、正しい、良い関係を、取り戻すこと。まずはそこに、わたしたちの、まことの平和があるのです。

#### <イエスさまによる平和の実現>

しかし、わたしたちの罪はあまりにも大きくなりすぎました。神さまへの背きは目に余るほどです。また、取り返しがつかないほどに、隣人を深く傷つけたり、また傷つけられたりしてきました。

わたしたちは、もはや、自分で自分の罪を償うことは出来ません。何か良いことをして埋め合わせたり、良い者になろうと努力したりしても、それでは全く足りないのです。

たとえ、この命を差し出したとしても、償い切れないほどに、神さまに対して犯した、わたしたち人間の罪は、とても大きく深刻なのです。

だから、神の独り子であるイエスさまが、わたしたちのところへ、来てくださいました。神さまと、わたしたちとの間に、平和を実現してくださるお方。和解をもたらしてくださるお方。わたしの代わりに、罪をすべて償ってくださるお方。

この方が、父なる神さまから遣わされたのです。

イエスさまは、この山上の説教を語られた後、十字架の死と復活への道を歩いて行かれます。イエスさまは、「わたしがあなたの罪を担う。わたしが十字架の死によって、あなたの罪を贖う。あなたは、わたしの十字架によって、神さまからの罪の赦しを得て、神さまとの間に平和を得ることができ、そのゆえに、隣人との間にも、平和を実現する者となることが出来る。だから、あなたたちは幸いだ」と言って下さるのです。

まさに、この方こそ、「平和を実現する方」であり。この方だけが、まことの「神の子」なのです。

イエスさまは、わたしたちに差し出された、神さまの赦しの御手です。

わたしたちは、イエスさまに自分の罪をすべてお渡しして、その御手にすぎることしか出来ません。

わたしたちは、神さまから差し出された罪の赦しを、ただ信じて受け取るだけ。わたしたちから敵対し、背いたにも関わらず、神さまから差し出された和解の申し出を、悔い改めと感謝をもって、ただ受け入れるだけなのです。

しかし、そのようにして、イエスさまが、わたしたちと神さまとの間に、確かな平和を実現して下さったのです。

そして、父なる神さまは、神の御子イエスさまによって、神さまとの平和に生きるようになったわたしたちを、神さまに従う者とされたわたしたちを、御自分の愛する子として受け入れてくださいます。わたしたちを、「神の子」と呼んでくださるのです。

「神の子」とは、本来、神の独り子であるイエスさまにしか、用いられない称号です。

でも、イエスさまに救われ、イエスさまと結ばれたわたしたちも、イエスさまと同じように、「神の子」と呼ばれるようになる。

だから、イエスさまが、愛と、赦しと、平和の父なる神さまの子どもとして、その御心を現わしつつ、ご生涯を歩み通されたように。わたしたちもまた、愛と、赦しと、平和に生きるようにと、招かれているのです。

#### <平和のつくり方>

このように、わたしたちに神さまとの平和を与え、わたしたちを「神の子」とする、イエスさまの十字架と復活の御業は、もうすでに、歴史の中で起こった出来事です。

すでに、ここに平和がある。すでに神さまの平和は、わたしたちに実現している。

イエスさまの十字架に、すでに、わたしたちの互いの罪も、敵意も、憎しみも、無関心も、すべて担われてしまっているのです。

だから、わたしたちは、共にイエスさまの十字架の御前で、今日からでも、今からでも、自己中心的な歩みをやめて。神さまの赦しの中で、互いに赦そうとしていくことが出来る。神さまの愛の中で、互いに愛し合っていくことが出来る。神さまとの平和を生きる者として、隣人とも、平和を実現していくことが出来るのです。

わたしたちは、イエスさまによって、まことの「平和」が、どのように実現されるのかを、目の当たりにしました。

イエスさまは、わたしたちを力でねじ伏せ、恐怖で支配し、暴力で従わせて、平和を与えたのではありませんでした。

イエスさまは、わたしたちを、愛すること、赦すこと、与えること、生かすことによって、平和を実現してくださったのです。

ですから、わたしたちも、イエスさまと同じ、「神の子」とされた者として、そのように平和を実現する者とされていきたいのです。

<神の子として>

もちろん、わたしたちは自分の力で、イエスさまと同じようにすることは出来ません。

敵を愛すること、自分を傷つけた者を赦すこと、自分の身を削って、相手に与えること。それは、苦痛と涙を伴うことであり、大変な忍耐が必要なことです。

それは、わたしたち人間に、簡単に出来ることではありません。不可能かと思われるほどです。しかし、神さまには、お出来になります。

神さまは、背くわたしたちを、愛し抜くことがお出来になります。神さまは、死ぬべきわたしたちを、生かすことがお出来になります。そして、神さまは、罪人のわたしたちを、赦すことがお出来になり、神の子としてくださることが、お出来になるのです。

それは、まことに、奇跡のような出来事です。

しかし、そのようにして、わたしたちが、神の子とされることが出来るなら。実際、神の子としてくださったのなら。

神さまは、わたしたちの心を新しくしてくださることも。神さまの御心に従うための、力を、勇気を、愛を、心の貧しいわたしたちに、豊かに与えてくださることも。必ず、お出来になるに違いないのです。

神さまが、わたしたちに望まれることならば。神さまが、わたしたちに、そのことを成し遂げる力をも、与えてくださるでしょう。

そうして、わたしたちは、イエスさまに担われて、神の子とされて、神さまに新しくされて、ここから、わたしから、平和を実現していくことが出来るのです。

そうやって、自分に与えられた隣人を、愛そうとする。赦そうとする。共に生きていこうとする。こうして、目の前の隣人との、日々の小さな平和を築いていくことは、世界の平和を実現するための、とても重要な一歩です。

だって、ここにいるわたしが、隣人との間に、小さな平和さえ実現することが出来ないのなら、どうして世界の平和など、実現することが出来るでしょうか。

わたしたちが、争いに苦しみ喘ぐ世界に、平和が実現しますように、と祈るなら。

神さまは、イエスさまを遣わして、わたしたちに平和を与えてくださったように。今度は、わたしたちを、平和を実現する者として、この世に遣わしてくださるのです。

今度は、このわたしたちが、神の子として、平和を実現する者として、神さまの御業に用いられるために、この世に遣わされるのです。

わたしたちが、目の前の人を愛するとき。赦すとき。そして、イエスさまが与えてくださる平和を告げるとき。その一人一人に、また神さまの平和が実現していきます。

そうして、愛と赦しの、まことの平和が、神さまのご支配が、一人ずつ実現し、世界を覆っていくのです。

そして最後には、イエスさまが、すべてを完成させていただきます。

…「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」。

それは、イエスさまにあって、神さまの愛と、赦しと、まことの平和に生かされている者が。神の子として、神さまと共に、平和を実現していくことができる。そのような幸いなのです。

**【お祈り】** 天の父なる神さま

イエスさまの十字架と復活によって、わたしたちの罪を赦し、命を与え、神さまと共に生きる平和を与えて下さったことを、心から感謝いたします。

あなたに、愛され、赦され、神の子とされた、幸いな者として、わたしたちも、平和を実現する者とならせてください。今日、ここから、隣人との間に、あなたからいただいた平和を、実現する者とならせて下さい。

そして、世のすべての人々に、この世界に、愛し合い、赦し合い、与え合って生きていくことが出来る、まことの平和が実現しますように。

このお祈りを、平和の主イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

**【讃美歌】** 4 1 6 「神の民は」

**【信仰告白】** ニカイア信条

**【十戒】**

**【献金】** 6 5 - 1 「今そなえる」

**【主の祈り】**

**【祈祷】**

**【讃美歌】** 2 6 「グロリア、グロリア、グロリア」

**【祝福】** 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン